

平成 30 年 3 月 18 日開催「市民検討会」での東郷和彦氏の発言要旨

- 自分の身分は、静岡県の対外関係補佐官です。外務省での長い経験を通して、国の大本がうまくいく時は、国は栄えますし、対外関係もうまくいきます。しかし、国の大本がうまくいかない時は、対外関係もぎくしゃくすると考えています。
- そのような意識をベースに、静岡県の様々な県土づくりに関心をもってきました。その中で、静岡県は、すばらしい可能性を秘めた県だと感じています。今の日本は、少子高齢化と財政赤字という目前の課題を解決することに精一杯です。それはそれで重要な課題ですが、それらの課題を乗り越えて、どのような国造りをしたいのかが浮かんできません。
しかし、静岡県には長期的な県政のビジョンがあります。それは、目前の課題を解決するとともに「静岡らしい」県造りを進めることです。具体的な対策として、①県が昔から受け継いできた、緑と水と太陽が豊かな自然、そこで、育まれてきた文化、特に、徳川家康以来駿府を中心に育まれてきた静岡の文化を大切にする。②そこで生きて働き生活していく県民を大切にする。県民がその豊かさを実感できる県にしていく。
③日本中が、世界中が、「ああ静岡はすばらしい、あそこに行くと、人間が明るい、自然と文化が豊かだ。富士山みたいな美しい県だ」と思えるような、県造りをしたい。まとめれば、長期ビジョン＝すなわち、「富国・有徳・ふじのくに」を目標とすることだと考えています。
- 2011年4月に、今の仕事についてから、県内のどこかに、そのような目標に適合した場所がないのか、一番ふさわしい場所がないのかと、県内をこつこつと訪問してきました。結果、目標に一番適合した場所は「三島市」でした。まず、富士山から流れてくる類まれな水を大切にしている、その代表が「源兵衛川」です。三島市全体を美しく豊かな「水の街」にしてゆこうという「都市計画」であり、周辺の田園の緑と水と富士山の眺望と、それらを生かした独自の開発を大切にしてきた。
その背景にあるのは、三島市民の意思とセンスであり、街全体を「もう一度来てみたい」と思わせるものに創ってきた貴重な実績です。住民と行政が一体となった、豊かさが感じられる場所は、私の知る限り、三島市が最先端の街です。
- 三島市は静岡県の三島市であり、日本の三島市でもあり、世界の三島市になり得ます。三島市を三島市らしくしているのは、三島の水です。

ヨーロッパでは南のヴェニス、北のオランダ・アムステルダムです。それらに匹敵する世界第3の「水の都」が、三島市だと私は考えています。すなわち、アジアをも代表しての三島市だということです。その実績を更に生かしていく街づくりこそ、三島市を世界で最も美しい街の一つにするものです。そこにこそ世界中の人々が集まり、観光収入だけでも、三島市は圧倒的に潤える街になります。観光は「便利」にするだけでは、人は来ません。オリンピックをめざして、日本中が「便利」な街になろうとしています。しかし、行ってみたいというものがあったら人は集まりません。

- さて、三島駅南口東街区において、最低 87 メートルから 100 メートル近い、高層マンションを中心とする「高層アパート・商業施設・駐車場」計画が公募され、今、事業協力者の審査が三島市によって着々と進められています。私は、三島駅南口にこのような建物が建設される三島市は、「日本の三島市・世界の三島市」に、ふさわしくないと考えています。ふさわしくないだけではなく、このような街づくり計画を本当に進めたら、やがて「誰も来なくなる」三島市になると思います。

今の三島市は重要な「分岐点」にあります。世界の三大水の都として、静岡の誇り、日本の誇り、世界の誇りになるのか。それとも、日本中どこにでもあり、しかも、押しなべて、成功していない駅前高層マンション都市の一つとして、やがて消えていくのか、最終的に選択するのは、三島市民だと思います。

- では、川勝知事は何と考えているのか。私のはっきり聞いているのは、昨年 12 月 18 日の知事の記者会見です。三島市が公募している、「高層アパート・商業施設・駐車場」計画について、
 - ① 富士山の眺望障害、地下水への影響等について心配する声が届いてきている。私の所にいろんな方の案が来るような状況は危惧せざるをえない。
 - ② 伊豆への玄関口、富士山の玄関口である三島市については、拙速を図らない方がいいのではないか。
 - ③ まずは「アイディアコンペ」のようなものをして、いろんな方のご意見を得られるようになさらないと、いけないのではないか。
- 更に知事は、決めるのは三島市民。それに対して「上目目線」で指図をするつもりはない、しかし、どういうビジョンが三島にふさわしいかという点については、自分も考えるところがある、という趣旨で、とても重要なビジョンを語られました。

- ①「100メートルの高層ビルというのは、玄関口にふさわしいとは思いません」
これは99メートルなら良いという趣旨ではない。要するに、以下にみられるように、高層マンションはふさわしくないと言っている。
- ② ではどういものがふさわしいかと言えば、地下に伏流水が流れている。西街区のホテルを建てる時でも、杭をうちこまないベタ基礎の上にホテルを建てる。東街区では南に大社や、源兵衛川もある、やはり高層なものを建てるべきではない。
- ③ もちろん地権者は大事。けれども、低層でも地権者の権利を十分生かす案はあると聞いている。
- ④ そこで具体的には、水・森・楽寿園のイメージ。せせらぎの公園を意識したような、芸術・水・緑が中心になる。三島が玄関口として富士山を眺望できるような芸術の都・食の都・水の都のイメージがふさわしい。

●この発言をされてから、本日は、ちょうど三か月目です。この間で、川勝知事の見方は全く変わっていません。

○会場からの質問に答えて

正月の三島市長のあいさつ回りなどで、三島市長と川勝知事との間で何が話し合われたかを自分は知りません。しかしながら、川勝知事の基本的な考え方が、12月18日から、全く変わっていないことは間違いありません。